

PC建築部会長

加藤 茂裕

トヨタT&S建設株式会社
代表取締役社長



2022年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員各社の皆様方には、平素よりPC建築部会の活動に多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

一昨年からのコロナ禍についてはご存じのとおり、国内ではいったん落ち着きを見せておりますが、グローバルでの経済活動の回復は未だに先行きの不透明感が拭えず、我々建築業界への影響もしばらく尾を引く見通しです。

製造、物流の不安定さにより需給のバランスが崩れており、原材料・燃料・構成部品等の高騰を招いています。特に建築の現場では資機材の調達長期化や慢性的な労働力不足が続いており、工期遅れの懸念が強まっています。

このような厳しい状況を打破し、建築業界が持続的成長を遂げていくためには、BIM/CIMなどデジタル技術の活用や現地工事レスに向けたプレハブ化、ユニット化などの施策による生産性の向上がますます重要視されてきています。

併せて建築を取り巻く環境としてのSDGsにも注目が集まってきております。災害に強いまちづくり・住まいづくり、カーボンニュートラルへの貢献は避けて通れない課題であり、今後もプレハブ建築への期待は大きいと考えられます。

PC建築部会におきましてはプレキャストコンクリートの強みである耐震、耐火性はもちろんのこと、高い環境性能や工期短縮効果についても更なる技術研鑽をしていきたいと考えています。「PC構造審査事業」「PC部材品質認定事業」「PC部材製造管理技術者資格認定事業」「PC工法施工管理技術者資格認定事業」の各種事業を通じてPC建築に関わる場づくりと人づくりを進めておりますが、アフターコロナでの事業の在り方を意識しつつ、現地現物とリモートを併用しながら事業を進め、その効果検証をしながら今後の在り方をまとめていきます。

また昨年が東日本大震災から10年の節目であることより、「PC建築による復興公営住宅」の取組みを冊子として編纂、発刊いたしました。未曾有の災害からの復興を何とかしてお支えしたいとの思いで会員各社が取組んだ軌跡をとりまとめ、有事への備えとすると共に、減災・防災の手法としても期待できるPC建築を広く周知していきたいと活動を始めております。

昨年開催された東京オリンピック・パラリンピックはコロナ禍での開催ということもあり、練習時間の確保もままならず、本番での観客の声援も無い大変困難な形ではありましたが、結果として競い合う選手同士がお互いに励まし、支えあい、称えあう姿がこれまで以上に、素敵に輝いた印象を受けました。

大きな課題に立ち向かう際には、日頃は切磋琢磨している各社がひとつの目標に向かって、皆で知恵と技術を絞り出し合いながら解決策を見出していけるチャンスになります。PC建築部会が仲間を結びつける役割を果たし、業界全体での建築手法の進化と技術者の育成に努めていく所存です。今後とも、皆様方の格別なるご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各社様の社業の益々のご発展と、今年一年の皆様方のご健勝、ご多幸を心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。